

「水源環境保全・再生かながわ県民会議施策懇談会」について

前期の県民会議より、「定例の会議では施策の内容を議論する時間が取れない」という課題が引継がれていたことから、「施策懇談会」を開催した。

これまでの会議において、繰り返し行われてきた議論をピックアップし、県からの概要説明の後、委員間で意見交換を行った。

- 開催日時 平成 29 年 9 月 5 日（火） 14:00～17:00
- 会 場 かながわ労働プラザ 4階 5・6・7会議室
- 参加者 県民会議委員：19名 県：緑政部長以下 17名
- 概 要

1 水源環境保全税について

県説明要旨
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 水源環境保全・再生施策策定までの税制研究会、県議会等の検討・論議の経過 ➤ 税充当事業の考え方 「一般的行政水準を超え、水源環境保全・再生に直接的な効果が見込まれる事業が対象となる。」
委員からの主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 税設置時の決まりをいつまでも守らなければならないのか。状況は変化しており、時代を読み違えてしまう恐れがある。

2 森林関係事業について

県説明要旨
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 神奈川の森林政策について 「これまでの取組により、荒廃森林の減少、林床植生の回復、森林の多様化などの効果が見られている。今後、この質を保っていくために状態の把握や人工林管理の仕組みなどの構築が必要」 ➤ 県内ダム集水域とダム下流域の取組 「ダム下流域でも、地下水や湧水の水源地として必要な取組を実施している。」 ➤ 自然林と人工林の取組状況 「木材生産目的の人工林から環境林に移行している確保森林もある。人工林荒廃対策だけではない。」
委員からの主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 木材の利用を増やす取組が必要。木質バイオマス発電を小さな単位で地域に根付いたやり方でやるなど、大小あわせ出口を増やすことで、自立する森林づくりが可能となるとよい。 ○ 次の対策（H38以降）についての青写真、森林活用の議論が必要。林業の経営状況は施策開始時と変化しないだろうから、森林が生き残るためにどうすればいいのかの議論が必要 ○ 経済林として成立するのが出口の一つだが、環境林はどう管理していくのが問題。その点を考えていきたい。 ○ 私有林の所有者の責任を考える必要があるのではないかと。

3 水関係事業・県外上流域対策について

県説明要旨
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河川水路における自然浄化対策の推進にかかる事業見直しの経緯 「県民会議からの意見を受け、第2期計画では整備手法の見直しや整備マニュアルの作成、第3期計画では合併処理浄化槽への転換促進の対象地域拡大など、見直しを行っている。」 ➤ 相模川水系上流域対策の推進 「第1期計画において実施した調査を基に、税充当の考え方を整理し、第2期計画より事業を実施。第3期計画においても、両県で検討会を重ね策定をした。」
委員からの主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 河川浄化対策は実施の必要がないのではないかと思われる箇所もある。(県回答：実施主体である市町村から、整備計画や水質改善予測の提出を受け、審査するよう改善している。) ○ 河川モニタリングの調査結果で動植物の結果を知りたい。

4 委員からの質問への回答

県説明要旨
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 森林環境税について ➤ 拡大竹林対策について 「水源林に侵入している竹に関しては水源林整備として駆逐しているが、竹林は水源林の確保対象とはしていない。」 ➤ シカ対策の優先度の見直しについて 「H28 管理捕獲事業費は総額約2億円（うち水源税約1.8億）。各種調査によると定着防止区域のシカの個体数推計は増加傾向を示している（安定性は低い）。鳥獣被害対策支援センターの設置やジビエカーなど、関係機関と連携した対策を実施、検討しているところである。」
委員からの主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林環境税、水源環境保全税、(横浜市)みどり税と3重の負担になる。 ○ 県民フォーラムなどで、国と県の税の違いを説明するなどの取組が必要 ○ 水源林の視点とは異なるが、竹林にはヨシやタケノコがあり、竹林の拡大はイノシシの拡大につながる。生態系・生物多様性のための河川整備でも樹林化した河川敷などから大型動物が市街地に入り込んでくるなどの被害がある。予備的な環境整備、人と動物の棲み分けが必要 ○ シカ管理捕獲の先進的な取組をしている神奈川県で、もっと取組を進めて欲しい。 ○ シカ対策については、永続的にお願いしたい。 ○ 日本ではシカ肉が流通しない。販路と需要に着目し、販路拡大と流通を県でやってみてもいいのではないか。

5 その他の主な意見

- いい山、いい森から海が豊かになる。その間には河川があり、森林と河川の整備をしっかりと行ってほしい。(岩手などでは)間伐材で漁礁をつくっている。神奈川でも運ぶ手段があれば間伐材を利用する人はいると思う。
- 人口減少の中、必要な対策、課題を検討する機会が必要。